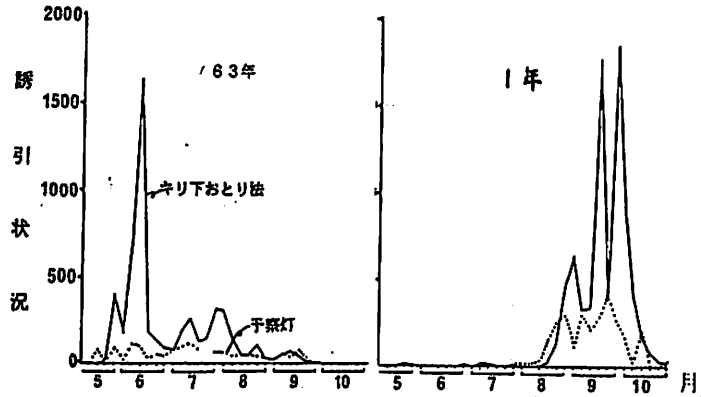
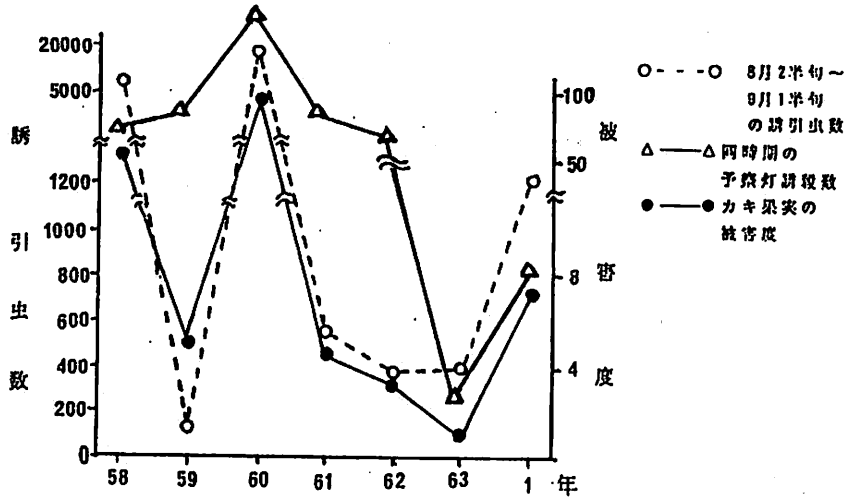


課題名	110 果樹カメムシ類の総合的防除	分類	①
	(3) 集合フェロモンを利用した“キリ下おとり法”による チャバネアオカメムシの発生予察		
試験研究年次	58～1年(完了)		
I 目的 チャバネアオカメムシの簡易な発生予察法を確立する。			
II 試験方法 1 設置場所 筑紫野市 吉木 福岡農総試験内 2 調査方法 5月中旬頃よりチャバネアオカメムシ雄成虫100頭を入れた網箱をキリ樹の下に設置した。成虫は死亡虫に見合う数を随時補給し、調査終了時の10月下旬まで個体数を維持した。これらの成虫の出す集合フェロモンとキリ樹の香りを誘引源にしてカメムシを誘引した。この方法を“キリ下おとり法”と呼んだ。 5月中旬～10月下旬まで、原則として毎日9時頃にキリ下おとり法に誘引されたカメムシを捕獲し誘引虫数を調査した。また、比較のため約30m離れた地点にある20Wのブラックライトを使用する予察灯の誘殺数も調査した。 誘引数とカキ果実被害の関係を見るため、カメムシの防除を行わない筑紫野市の一般農家圃場の‘富有’の被害を10月下旬に調査した。			
III 主要成果の概要 キリ下おとり法によるチャバネアオカメムシの誘引数は予察灯よりも多い。また、誘引性が異なるためか、キリ下おとり法の誘引虫数のピークは予察灯の誘殺数のピークと一致しないが、8月2半旬～9月1半旬にキリ下おとり法で誘引されるチャバネアオカメムシの虫数とその年のカキ果実の被害程度には高い相関があり、本方法は短期の発生予察に利用できる。			

IV 主要成果の具体的データ



第1図 キリ下おとり法と予察灯での誘引消長



第2図 各年のキリ下おとり法での誘引虫数とカキ果実の被害程度推移

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 チャバネアオカメムシの発生予察の資料となる。
- 2 キリ樹以外の樹の下におとりを置いても誘引虫数が少ないので、必ずキリ樹の下に設置する必要がある。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 さらに簡便な予察法の開発
- 2 より正確な長期予察法の開発

VII 資料名

- 1 61, 62, 63, 元年度 福岡県農業総合試験場 生産環境研究所果樹病害虫に関する試験成績書
- 2 61, 62, 63, 元年度 農水省落葉果樹試験成績概要集 (虫害)